

令和2年度 学校評価総括表

(徳島県立徳島科学技術高等学校 全日制課程)

基本方針	科学技術の高度化・複合化，社会の変化や産業界の要望に対応した専門教育を展開する。
基本目標	① 礼儀，責任，勤労，技術の調和のとれた教育を推進し，心豊かで創造力に富み，主体的・協働的に行動できる人間を育成する。 ② 基本的人権を尊重し，自他を大切に，地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。 ③ 技術革新や社会の要請に対応しうる，実践力を身につけた技術者を育成する。
重点目標	① 進学希望者と就職希望者の両者を支援するハイブリッド型(複線型の進路体系)教育システムを生かし，生徒の知識・技術・技能・態度を育成する教育を展開する。 ② 工業・水産教育を核とした教育活動全体を通して，目標を設定し挑み続け，主体的に学習し，他者と協働できる人材の育成を図る。 ③ 持続可能な社会の実現に向けた取組や技術者としての規範意識や倫理観の育成など，これからの社会に求められる特色ある教育活動を実践する。

達成度	A	十分達成できた	C	変化の兆しがあった
	B	概ね達成できた	D	達成が不十分であった

本年度の具体的目標	テーマ 規範意識や倫理観の高揚に努め，豊かな人間性を育むとともに，SSHでの取組を主体的・対話的で深い学びの実現につなげ，目標や課題に粘り強く挑戦するチャレンジ精神や，社会の変化に対応できる力を養う教育を推進する。
	① 文武両道を実践し，何事にもチャレンジ精神をもって，主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。 [主体的・協働的に取り組む姿勢の育成] ② 社会的・職業的自立に必要な知識・技術・技能・態度を身につけ，社会の変化に対応でき，地域社会や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。 [専門教育の推進] ③ 「徳島県キャリア教育推進指針Ⅱ」に基づき，変化の激しい社会を生き抜く力を身につけるキャリア教育を推進する。 [キャリア教育の充実]

年度総合評価

重点課題	SSH部	人権教育	学習指導	生徒指導	進路指導	教育相談 特別支援教育	環境教育	防災教育	保健安全教育	特別活動	工業・水産教育 (高大連携) (インターシップ)	工業・水産教育 (資格) (コンテスト)	家庭・地域との連携
番号	1, 2	3, 4, 5	6, 7, 8	9, 10, 11, 12	13, 14, 15, 16	17, 18, 19	20	21	22	23, 24	25	26	27, 28, 29
総合評価	A	B	B	B	B	B	B	B	C	A	B	B	B

学校自己評価

年度目標					年度評価(3月1日現在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標(目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
1	SSH部 ① SSH事業の取組を行うことにより，理数系教育を通して，科学技術人材等の育成を図る。	① 課題研究発表会等により，プレゼンテーション能力の育成を図り，主体的に取り組む能力を養う。 (SSH部・各クラス・コース)	① 年度末にSSH研究発表会を開催する。 ② 各種コンテスト，発表会等に積極的に参加する。	① 各コースごとに研究テーマを発表する。 発表を11テーマ以上とする。 ② 各種コンテスト等に参加し，入賞以上を目指す。	(評価指標による達成度) ① SSH研究発表会で，5テーマの口頭発表と16テーマの動画発表を行う予定。 ② 全国や四国地区，県内SSH発表会や他校にて取組の発表を行う。また，科学の甲子園等にも参加した。 (活動計画の実施状況) ① 2月9日に実施予定。 ② 随時実施	(達成度) A (所見) ①② コロナウィルス感染拡大により，オンライン発表や参加も交えての実施となった。	① 各コース1テーマ以上発表をすることで，SSHに関する意識付けができ，プレゼンテーション能力の向上にも繋がった。保健厚生委員会からの発表も実施でき，類・コース・学年を越えた研究ができた。 総合型選抜入試において，自己PRに大いに役立った。 ② 発表会へ積極的に参加した。	① 昨年度開発した学校独自ノートの導入により，課題研究の高度化に取り組むことにより，科学技術人材の育成を目指す。 ② 参加人数及び入賞数を増やす。
2		② SSHの取組により，生徒の興味や関心を持たせる。 (SSH部・各クラス・コース)	① 魅力あるSSH事業を展開し，理科・数学への興味や関心を向上させる。	① 「SSHの取組に参加して，科学技術に興味・関心・意欲が増した」70%以上。	(評価指標による達成度) ① 1年生 71% 2年生 75% 3年生 71% (活動計画の実施状況) ① SSH研究発表会後にアンケート調査を行った。	(達成度) A (所見) 達成できた。	① SSHや理数科目への興味・関心が得られた。課題研究等の探究活動の意識付けができた。	① 1年生から継続的に探究活動に取り組むことで，より科学技術に対する興味・関心を高めるよう努める。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 (目 標 値)	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
3	人権教育 ① 基本的人権を尊重し、自他を大切に、地域社会や国際社会に貢献できる人間を育成する。	① 人権尊重の精神の涵養が図られるよう、教育活動全体の中で、人権教育を推進する。 (進路部・人権教育課)	① ホームルーム年間計画で予定した個人権課題に対応する学習を通して、生徒の人権尊重の精神の涵養を図る。ホームルーム活動(人権)において、人権委員が活動への積極的な参加を促すとともに、活動の記録を記入する。 ② 家庭・地域への積極的な啓発に努め、学校・家庭・地域が一体となって展開する人権教育活動を充実させる。	①-1 学校評価(生徒)で人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より5%アップ。 ①-2 ホームルーム活動(人権)の内容理解と積極性の記録で4段階評価の平均が3.3以上。 ② 学校評価(保護者)人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より5%アップ。	(評価指標による達成度) ①-1 9%減(49→40%) ①-2 平均3.6 ② 31%減(49→18%) (活動計画の実施状況) ①-1 昨年より減少し目標達成できなかった。 ①-2 目標達成できた。 ② 昨年まで行っていた講演会の案内ができなかった。	(達成度) C (所見) 生徒の評価も減少しているが、保護者の評価は大幅に減少した。	新型コロナウイルス感染症予防のため学年別講演会を実施できなかった。生徒の活動もホームルームごととなり、また、保護者への啓発の機会が減少したことが大きく影響していると思われる。 裏を返せば講演会が人権活動を充実させるために効果的であることの現れといえる。	次年度もコロナ禍で講演会を今まで通りの形で実施することは厳しいと考えられる。他の分掌の協力を得ながらオンラインなど機器を活用した方法を模索したい。
4		② 安心して楽しく学べる学習環境の整備に努め、豊かな人間性を育成し、主体的に学んだことを行動に結びつけることのできるスキルを養う。 (進路部・人権教育課)	① 人権委員を中心として、教室や廊下などの美化活動を行い学習環境の整備に積極的に努める。 ② 人権問題研究部(部活動)を活動に行う。中・高生による人権交流集会に参加し、その内容を学校全体に伝え人権意識の高揚を図る。	① 「かべピカ活動」を年8回行う。 ② 中・高生による人権交流事業生徒部会に延べ15人以上参加する。	(評価指標による達成度) ① 8回 ② 21人 (活動計画の実施状況) ① 目標達成できた ② 全体生徒部に3回・中部ブロック生徒部会に7回参加した。	(達成度) A (所見) 計画通り実施できた。	昨年に引き続き生徒が主体的に活動する機会を多くもてた。校外での活動ではブロックの会長を引き受けるなど生徒は積極的に活動に取り組むことができた。このことにより参加した生徒の人権意識を高めることができた。	生徒の校内で活動の場が増えるよう、人権新聞発行など人権委員会や人権問題研究部の取組をさらに充実させる。
5		③ 生徒一人一人の居場所があり、安心して過ごせる場所であると実感できるホームルームや学校全体の雰囲気づくりを行う。 (進路部・人権教育課)	① 教職員一人一人が豊かな人権意識を身につけ、人権感覚を磨くことができるよう校内外の研修への参加を積極的に行う。 ② 「かぎまる人権dAy」で人権委員が挨拶運動や放送での呼びかけを行い、生徒の人権意識の高揚を図る。 ③ 人権意識調査やインターネット意識調査、人権教育講演会アンケートを実施し、生徒の人権意識の変容を確かめる。	① 学校評価(教職員)で人権教育に積極的に取り組んでいる。「そう思う」が昨年より5%アップ。 ② 人権委員による挨拶運動を年7回実施する。 ③ 調査やアンケートなどを4回行い結果を生かした人権教育を進める。	(評価指標による達成度) ① 15%増(40%→55%) ② 7回 ③ 4回 (活動計画の実施状況) ① 目標達成できた。 ② 目標達成できた。 ③ アンケート2回を感想2回に変更した。	(達成度) A (所見) 計画通り実施できた。	教職員全員を対象としてホームルーム事前研修会を位置づけた。資料集「じんけん」を担当だけでなく多くの教職員にも配付し参加者の意識向上に努めた。 挨拶運動やかべピカ運動を通して安心して過ごせるホームルームの雰囲気作りができています。	全員参加の教職員の人権感覚を磨くため学年別研修を継続したい。 人権委員による挨拶運動とホームルーム活動の記録の記入を継続し、委員の自覚と人権意識の高揚を図る。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 (目 標 値)	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
6	学習指導 ① 課題学習の工夫や個別指導を充実させることにより、生徒の個性を伸ばし、主体的に取り組むとともに他者と協働する態度を養う。 ② 社会的・職業的自立に必要な知識・技術・技能・態度を身につけ、社会の変化に対応でき、地域社会	① 基礎・基本の定着を図り、それを活用した実践的な知識や技能を身につけさせる。 (教務部・教務課)	① 学びの基礎診断認定ツールであるスタディーサポートを活用し、分析会を開き、生徒の実態把握に努める。その分析結果を基に、各教科ごとに課題を見極め、その課題を解決するために、教員の具体的な取組を定め実行する。	①-1 スタディーサポート実施教科について、分析結果を基に「校内学力向上のための実行プラン」を作成する。 ①-2 「校内学力向上のための実行プラン」の最終評価値の平均が3.2以上を目指す。	(評価指標による達成度) 校内学力向上のための実行プランの最終評価値平均が3.02であり目標まであと0.18足りなかった。 (活動計画の実施状況) スタディーサポートの分析結果を基に作成した校内学力向上のための実行プランを作成し実行した。	(達成度) B (所見) スタディーサポートの分析結果を基に作成した校内学力向上のための実行プランの、PDCAサイクルを意識した活動に取り組んだが、目標まで少し届かなかった。	① 校内学力向上のための実行プランのPDCAサイクルを意識した活動をしたが、目標を達成できなかった。生徒の授業に対する評価においても昨年度より2.51%とダウンしている。	① 生徒の授業に対する評価において2.51%とダウンしていることから、普段の授業から生徒の実態把握に努め、課題を見極め、適切に対応していく必要がある。
7		② 普段の授業から、思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学習に取り組む態度を身につけさせ	① 教育活動の中で、生徒の実態に応じて、アクティブラーニングなどの手法を用い、気づき・発見、考え、まとめ、伝えるを通し	①-1 今年度授業評価における理解度のポイント数を昨年度の0.1%アップを目指す。 ②-2 今年度授業評価におけ	(評価指標による達成度) ②-1 授業評価における自己評価の理解度が、1・2年生は平均より良いが、	(達成度) B (所見)	② 生徒の自己評価における主体性(準備・態度・興味関心)がアップしているが、授業に対する評価に	② 今後も電子黒板を積極的に活用し、コロナ禍でのアクティブラーニングの手法を工夫しながら、

	や産業界に貢献し得る実践的な技術者を育成する。	る。 (教務部・教務課)	て他者と協働しながら主体的に学習する力を養成する。	る主体性(授業準備, 授業態度, 興味関心)のポイント数を昨年度の0.3%アップを目指す。	0.11%ダウンした。 ②-2 授業評価における主体性(授業準備, 授業態度, 興味関心)が3.53%と大幅にアップした。 (活動計画の実施状況) 電子黒板を積極的に活用し, アクティブラーニングの手法を用いた授業を積極的に展開し, 主体的・対話的で深い学びを実践した。	電子黒板を活用した授業を積極的に実施し, 生徒の主体性はアップした。しかし生徒の理解度を上手くアップさせるまでには至らなかった。	において主体的な活動が昨年度より2.81%ダウンしていることから, 新型コロナウイルス感染症の影響により対話的な学びの減少が考えられる。	どの様に対話的で深い学びに繋げるか, 工夫が必要である。
	③ 将来を見据えた望ましい職業観を育成し, 主体的・協働的に学習する態度を育てる。 (教務部・教務課)	① 各類での専門教育や職業内容の研究を通して, 将来の進路への具体的な目標を持ち, その達成のために主体的に学習に取り組む態度を育てる。 また, 実験・実習において他者と協働した学習活動を通して人間関係形成・社会形成能力を育てる。	①-1 今年度授業評価における自己評価のポイント数を, 昨年度の0.3%アップを目指す。 ①-2 今年度授業評価における試験勉強と授業の積極性のポイント数を, 昨年度の0.1%アップを目指す。	(評価指標による達成度) ③-1 授業評価における自己評価では4.04%と大幅にアップした。 ③-2 授業評価における試験勉強と授業の積極性が4.95%と大幅にアップした。 (活動計画の実施状況) 進路関係のホームルームを通して望ましい職業観を育成するとともに, 実験・実習において協働的に活動できた。	(達成度) A (所見) 授業評価における自己評価だけでなく, 試験勉強と実習などの積極性も大幅にアップした。	③ 授業評価における自己評価がアップし, 試験勉強と実習などの積極性もアップしていることから, 主体的に他者と協働した学習活動が実践できている。	③ 授業評価における自己評価はアップしているが, 生徒の授業に対する評価は-2.51%とダウンしていることから, 電子黒板の活用方法などを研究し, 授業改善への努力が求められる。	
8	④ 読書の奨励を図り, 基礎学力の向上と生涯にわたり学び続ける能力を育てる。 (教務部・教育情報課)	① 図書館の積極的な活用を図り, 読書の奨励を行う。	① 図書貸出数が月間300冊以上を目指す。	(評価指標による達成度) ④ 平均月間貸出数221冊 (活動計画の実施状況) 図書館オリエンテーション。(1学年) 図書館だより発行。(10回) コース別推薦図書リスト作成。(4種) 図書展示・読書推進イベント。 県立図書館との連携。 読書感想文課題の実施。 各種コンクール応募案内。 図書委員会活動: 推薦図書リスト作成。(2回) 文化祭展示。	(達成度) B (所見) 月間貸出冊数は, 目標値に届かなかった。	④ 新型コロナウイルス感染症の影響で1学期の貸出が大幅に減少したが, 2学期に入り, 感染症対策を取った上で, 各教科での図書館学習, 1学年への図書館オリエンテーションが行えたことで, 貸出冊数が回復してきている。	④ クラスによって貸出数に差があり, 全体に読書習慣を身につけさせるには, 担任と連携し粘り強く働きかける必要がある。	

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)				
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
9	生徒指導 ① 基本的な生活習慣を身につけさせる。遅刻者数を減少させる。最低限昨年度の数値を維持する。また, 家庭との連携を密にする。 ② 「遵法精神の涵養」, 「意識の高揚」及び「知識の定着」を図る。また, 全教職員が温度差のない指導が行えるようにする。	① 基本的な生活習慣の確立を図り, 時と場にふさわしい礼儀・あいさつ・言葉遣いを身につけさせるとともに, 遅刻回数減少から規則正しい生活リズムを構築させる。 (指導部・生徒課)	① 遅刻カードを用いた遅刻指導を徹底する。家庭との連携により, 規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ② 外来者へのあいさつを徹底する。また, 集会時において, 8Sの一つである「躰」を徹底する。 ③ 問題行動の未然防止に努める。	① 月間登校時遅刻率を1.0%未満とする。(1日当たり9.0人) 遅刻の多い生徒については月4回以上で個別指導, 月8回以上で保護者を交えての指導を行う。 ② 毎月規律指導の週に, コース長や学年主任(学年副主任), 当日日直, 生徒課員で正門における登校時身だしなみ指導を実施する。 ③-1 毎時の休憩時間において輪番制による校内巡視を実施し, 各教室の施錠および生徒の生活状況を確認し防犯等に努める。 ③-2 HR担任と日直が連携し, 放課後の教室施錠を徹底する。	(評価指標による達成度) ① 1日の遅刻者平均は, 4.36人で0.5%であった。 ② 毎月初めの週に実施し, 登下校時身だしなみ指導を類・コース長, 学年主任で行った。 ③ 各授業開始直後や放課後に各教室の施錠確認及び校内巡視を実施した。また, 昼休み時間は, 校内の主要な門において巡視も行った。 (活動計画の実施状況) ① 計画通り実施できた。 ② 担当教員と連携し計画通り実施できた。 ③ 担当教員と連携し計画通り実施できた。	(達成度) B (所見) 計画通り実施できた。	① 数値的には目標達成することができた。しかし昨年の遅刻数をわずかに上回った。コロナによる不安定な生活の影響があったと考えられる。 ② 登下校時の身だしなみは正せたものの, 校内における服装の乱れが若干目立った。 ③ 各クラスの施錠状況は良かったものの, 生徒自らが責任をもって貴重品などを管理する指導が必要となった。	① 1日の遅刻者平均を本年度同様, 1.0%未満(1日当たり9.0人)とし, 本年度以上の数値を目標とする。 ② 本年度通り実施し, 下校時まで身だしなみが維持できるよう, 教職員が連携し注意喚起する。 ③ 本年度通り巡視態勢を継続し実施する。生徒の所持品については自他の区別を明確にし, 自らが責任をもって管理できるよう, 様々な場面を捉え指導していく。
10		② 定期的に規律指導を行い, ルール遵守から集団	① 一人一人が充実した学校生活を送る中で, 「自分を大切にすこ	① 規律指導を毎月初めに実施し, 指導を徹底する。各回と	(評価指標による達成度) ① 本年度は新型コロナウイルスウイ	(達成度) B	① 規律指導以外において, 男子の頭髪・シャツ出し,	① 規律指導カードを迅速に集計し, それを活用し

	<p>③ 交通道徳を遵守させ、登下校時の交通安全指導を徹底させる。</p> <p>④ 生徒が安全で安心して生活できる教育環境を整え、自己実現の一助とする。</p>	<p>生活の規律向上に努める。自ら率先して考え、判断・行動のできる能力を育てる。 (指導部・生徒課)</p>	<p>とが「他人を思いやること」につながることを気づかせる。</p> <p>② 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話、携帯電話・スマートフォン(WE B関係を含む)安全教室、制服を美しく着こなすセミナーを実施することで、心の躰を向上させる一助とする。</p>	<p>も違反者については、一定期間内で完全に直させる。</p> <p>② 喫煙・飲酒・薬物乱用防止に対する講話やゲーム依存ネット障害や携帯電話(WE B関係を含む)安全教室、制服を美しく着こなすセミナーを開催し、生徒の意識高揚と知識の定着を図る。</p>	<p>ルスの影響で、総ての規律指導を電子黒板を使ったZOOM配信と、各クラスでの個別指導及び巡回指導となった。</p> <p>② 喫煙・飲酒・薬物乱用防止はそれぞれ単独で行う事ができたが、その他の講演会は、新型コロナウイルスの影響で実施する事が出来なかった。その代わりに、制服セミナーのみは生徒課職員によってWEBにて実施した。</p>	<p>(所見) 新型コロナウイルスの影響で、一部実施する事が出来なかった。</p>	<p>女子の化粧・スカートの巻き上げが目立った。</p> <p>② 各講演等を真剣に聞くことができ、学校生活や家庭生活に活かす一助となった。</p>	<p>た指導体制を整える。また、担任を通した保護者との連携を密にし、軽微な違反を見逃さない指導を実践していく。</p> <p>② 本年度通り実施する。より一層の意識の高揚と知識の定着を望める講演を計画していく。</p>
11		<p>③ 「学校安全の日」、「交通マナーアップクラブ」及び所轄警察署の指導等を通して、交通安全教育の一層の徹底を図る。 (指導部・生徒課)</p>	<p>① 毎月20日を「学校安全の日」とし、教職員と保護者が連携して、通学時に混雑が予想される場所において登校指導を行う。</p> <p>② 自転車点検や駐輪場での施錠確認、駐輪状態確認を行う。交通安全教育を充実し、道路交通法を遵守させる。</p> <p>③ 生徒を主体とした交通マナーアップ運動の推進を図る。</p>	<p>① 年間を通して、日直と生徒課員が、正門を含む学校近隣において、登下校指導を行う。特に、毎月20日には、輪番制で各学年PTA役員と教職員が協同で登校指導を行う。</p> <p>② 年間5回の自転車点検を実施する。駐輪場における自転車施錠の習慣と駐輪状態の整理整頓を身につけさせる。傘差し運転の禁止と雨合羽着用の指導を繰り返し行う。</p> <p>③ 生徒会や交通委員によるあいさつ運動と生活委員による駐輪場の整理・整頓などを行う。</p>	<p>(評価指標による達成度)</p> <p>① 登下校指導をはじめ、毎月20日に行う交通安全指導を多くの教職員、PTAの協力を得て実施できた。</p> <p>② 年間5回の自転車点検を行った</p> <p>③ 生徒会や各種委員と連携した取組を行うことができた。特に、万一事故が起ころうともあわてずに対応できるよう、事故状況メモのカードを全生徒に携帯させた。 (活動計画の実施状況)</p> <p>① 概ね実施できた。 ② 計画通り実施できた。 ③ 計画通り実施できた。</p>	<p>(達成度) B</p> <p>(所見) 計画通り実施できた。</p>	<p>①② これまでの登下校指導や交通安全指導などにより、歩行者や近隣住民の方々から通報なども数件あった。</p> <p>③ 本年は、新型コロナウイルスの影響で他との連携事業を行う事ができず、本校独自の交通マナーアップ運動に止まった。</p>	<p>①②③ 登下校指導を全教職員が協力し、実践できる指導体制を確立していく。また、駐輪場における自転車の施錠・整理整頓、交通マナーの向上を各種委員会と連携するなか強化していく。引き続き万一事故が起こってもあわてずに対応できるよう、事故状況メモのカードを全生徒に携帯させ、自転車事故減少に努めていく。</p>
12		<p>④ 教育活動全体を通して、全生徒に「いじめは絶対に許されないこと」との理解を促し、心の通う人間関係を構築する能力の素地を養う。 (指導部・生徒課)</p>	<p>① 定期的に校内巡視を行い、いじめの未然防止に努める。また、いじめ・体罰被害アンケート調査を各学期末に実施する。</p>	<p>① 各学期末に、年合計3回のいじめ・体罰被害アンケート調査を実施する。また、毎時休憩時間に輪番制による校内巡視を実施し、生徒の生活状況を確認する。</p>	<p>(評価指標による達成度)</p> <p>① 年間行事の各学期末に、HR活動の時間を設定し、いじめ・体罰被害アンケート調査を実施した。 (活動計画の実施状況)</p> <p>① 計画通り実施できた。</p>	<p>(達成度) B</p> <p>(所見) 計画通り実施できた。</p>	<p>① アンケート調査結果から迅速に対応し、生徒からの相談、悩みに対して組織的に対応し解決の糸口となった。</p>	<p>① 本年度通り実施する。常に「いじめは絶対に許さない」という強い信念を持ち、些細な生徒からのシグナルを見落とさないように心掛けておく。</p>

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 (目 標 値)	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
13	進路指導 ① 将来を見据えた望ましい職業観・勤労観の育成と、生徒一人一人に対応した柔軟な進路指導を展開する。	① 進路への興味・関心を喚起し、将来を見据えた望ましい職業観・勤労観を養う。 (進路部・就職課・進学課)	① HRへ各種進路情報を提供する。(模試・ガイダンス・推薦・求人・工場見学等)	① HRへの情報提供の生徒満足度80%以上。	(評価指標による達成度) ① 本年度のアンケートの結果から生徒93.4%、保護者84.2%の満足度が得られた。 (活動計画の実施状況) ① 進路に関する情報提供は必要に応じて随時実施をしている。	(達成度) A (所見) ① おおむね達成できた。	① コロナ禍において、企業や大学の訪問等による情報収集が困難な状況のなかでの情報提供となったが、限られた情報を生徒と共有することで、生徒自らが進路を考えるきっかけとすることができた。	① 次年度も企業・大学訪問及び生徒の工場や大学の見学の実施が難しいことも予想される。その中での情報収集の施策を考える必要がある。
14	② 求人企業の確保と進学に向けての適切な指導を行う。 ③ 進路達成に向けて学習指導の充実を図る。	② 生徒一人一人の能力・適性、興味・関心に対応した組織的・継続的な進路指導を展開する。 (進路部・就職課・進学課)	② 生徒一人一人の理解を深めるために個人面談や三者面談を実施する。また、生徒の希望や能力に応じた進路希望を実現するため、進学・就職補習および進路相談を充実させる。	② 適性・希望に対応した進路指導に対する満足度80%以上。 就職内定率100%。	(評価指標による達成度) ①-1 本年度のアンケートの結果から生徒90.7%、保護者85.6%の満足度が得られた。 (活動計画の実施状況) ① 進路希望調査を年3回実施し、進学補習も年間を通じて計画通り実施できた。	(達成度) A (所見) ① 概ね達成できた。	① コロナ禍で休校中も三者面談及び家庭とも連絡を実施することで生徒の希望・適正に応じた指導を随時実施することができた。その結果、就職においては内定率100%、進学においては国公立大学合格者38名という結果を残すことができた。	① 次年度はコロナの影響で就職に対しての求人数が減少することもありうる。生徒の基礎知識及び進路に対する意識をこれまで以上に向上させて進路実現に取り組む必要がある。

15	③ ICTを利用して、生徒の学校や家庭での生活を把握し、改善に努める。 (進路部・就職課・進学課)	③ ICTを利用して、学習記録や考査等のテスト成績を記録し、HR担任と生徒・保護者との面談の資料として活用し、主体的な取組が行えるように促す。	③ 科学系の平日の家庭学習時間を2時間以上、休日の家庭学習時間を3時間以上。	(評価指標による達成度) ① コロナ禍により、ICTの活用が進み、積極的な取組につながった。	(達成度) A (所見) ① 概ね達成できた。	① コロナ禍ではICTを積極的に活用することで面談として効果的に活用することができた。また保護者への的確な連絡に役立った。	① ICTの有効性を感じる1年間であったので、次年度も積極的に活用の幅を広げていき、さらなる活用方法を探る。
16	④ 進路ガイダンスや講演会等を通して、キャリア教育の充実を図り、社会人として自立できる資質や自ら進路を決定できる能力を養う。 (進路部・就職課・進学課)	④ 生徒の希望に添ったガイダンスを各学年にて実施する。また、進路講演会等により、勤労観、職業観を養い、職業に対する意識の高揚を図る。	① 進路ガイダンス実施後満足度 80%以上。 進路講演会等実施後満足度 80%以上。	(評価指標による達成度) ①-1 生徒は92.8%、保護者は84.2%の満足度であった。 (活動計画の実施状況) ガイダンスに関しては後半は計画的に実施することができた。 卒業生を講師として招いて実施していた講演会は、コロナの影響で実施することができなかった。	(達成度) B (所見) ① 概ね達成できた。	① コロナ禍で前半は実施できなかったが、後半は予定通り実施できた。生徒からの感想からも好評であった。生徒の進路に対する意識向上に役立った。	① コロナの影響もあり、1年を通しては計画的に実施できなかったが、次年度も綿密な計画のもと、生徒の意識向上につながるガイダンスや講演会を実施していく。

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番 号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
17	教育相談・特別支援教育 ① 相談・支援活動を充実させる。	① 生徒の変化を見逃さない。 (指導部・教育相談課)	① 生徒の出席状況の把握と支援の検討をする。 ② 専門機関との連携をする。	① 欠席の続く生徒に対する適切な対応を検討する。 ② 必要に応じて専門機関との連携を図る。	(評価指標による達成度) おおむね達成できた。 (活動計画の実施状況) ①欠席状況を把握し、関係教員と連携できた。 ②専門機関と連携し、指導を受けることができた。	(達成度) B (所見) ほぼ計画通りにできた。	① 学校と保護者、カウンセラーが情報共有のもと対応し、良い効果を得たケースもあった。 ② 専門的な指導を受け、教育活動に生かすことができています。	引き続き、生徒の欠席状況や保健室利用状況を把握することで、早期に生徒の問題を見つけ、スクールカウンセラー等を活用した対応をする
18		② 相談活動を充実させる。 (指導部・教育相談課)	① 教育相談室の放課後利用を図る。 ② 相談事業の広報を図る。	① 放課後に相談室を開室する。スクールカウンセラーを活用した教育相談室の利用を図る。 ② 「ほっとだより」を各学期1回以上発行する。	(評価指標による達成度) おおむね達成できた。 (活動計画の実施状況) ①スクールカウンセラーが放課後の相談を行った。 ②-1 「心と身体のチェックリスト」を生徒全員に行い、ストレス度の高い生徒は担任と連携して相談につなげることができた。 ②-2 スクールカウンセラーが1年生全員面談を実施し、予防教育ができた。 ②-3 「ほっとだより」は2回しか発行できなかった。	(達成度) B (所見) ほぼ計画通りにできた。	① スクーカウンセラーによる相談以外に巡回相談も行い、相談活動が充実した。 ②-1 生徒が自身のストレスについて考え、カウンセリングについて理解が深まった。 ②-2 「ほっとだより」の発行回数が少なく、情報提供が不十分だった。	① 課内会議を増やし、情報共有に努める。 ② 引き続き、ストレスについて正しい理解ができるように予防教育と合わせて働きかける。 ③ 「ほっとだより」のテーマを厳選し、心に関する情報提供を進める。
19		③ 学校全体での支援体制の充実を図る。 (指導部・教育相談課)	① 校内研修会を開催する。	① 校内研修会やワークショップを年1回以上開催する。	(評価指標による達成度) 校内研修会を1回実施することができた。 (活動計画の実施状況) 「特別な支援を要する生徒への対応について」をテーマに研修会を行った。	(達成度) B (所見) ワークショップを行う時間的余裕がなかった。	① 日頃の教育についての悩みを具体的に指導をしていただき、教員の意識改革になった。	引き続き、その年度の生徒の必要性に応じた内容の研修会を行う。
20	環境教育 ① 各クラスの環境整美委員会を中心に、HR担任や清掃分担の教員の協力のもと日頃の清掃指導の徹底を行う。	① 日々の清掃活動の充実を図り、美しい環境が整った学校づくりに努め、次に使う人の立場に立った「いつもきれいに清掃で心を磨く科技高生」の実践を行う。 (特活部・環境教育課)	① 校内美化週間期間中、環境整美委員会を中心に清掃の徹底、ゴミ分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓の徹底を図る。 ② 学校行事等(体育祭、文化祭)の際に発生する、ゴミ問題について、環境整美委員会を中心とした環境美化に関するモラルやマナー「マナーを守り、自分のゴミは持ち帰る。」の啓発活動を行う。	① 日頃の清掃、ゴミの分別の徹底、ロッカー・掲示物の整理整頓を行う。 ② 校舎内への土侵入防止。 ③ 学校行事(体育祭、文化祭)などの際、環境美化やゴミ問題に対するモラルやマナーを守る。	(評価指標による達成度) ① 日頃の清掃状況について ①-1 毎日清掃が良くてできた。 94% ①-2 ゴミ分別が良くてできた。 97% ①-3 掲示物、ロッカーの整理整頓が良くてできた。 72% ② トイレの使用状況が多少悪化しているように思う。 ③ 学校行事について ③-1 体育祭でのモラルやマナーが守られた。 81%	(達成度) B (所見) 評価指標関係について、多少改善しなくてはならない。 ① 清掃の徹底・掲示物・ロッカーの整理整頓に多少の改善点が必要である。 ② 毎日のトイレ清掃は、概ね達	①-1 日頃の清掃活動について 「清掃が大変良くてできた。」 「よくできた。」含め94% 「多少改善点がある」 6% 多少改善しなくてはならない。 ①-2 ゴミ分別について 「ゴミ分別が大変良くてできた。」 「よくできた。」含め 97% 「多少改善点がある。」 3% 今後もゴミ分別に対す	① 各クラスの環境整美委員会を中心にHR担任や清掃分担の教員の協力のもと指導の徹底を行う。また、アンケート調査等で清掃分担場所の清掃状況を把握し、環境美化週間等に反映していきたい。 ② 学校行事の体育祭では実施場所が変わったこともあり、例年以上に啓発活動を実施していかななくてはならない。文化祭では、来校者のマナー向上

					<p>③-2 文化祭でのゴミ分別は守られた。 91%</p> <p>(活動計画の実施状況)</p> <p>① 各クラス的环境整美委員を中心にHR担任の指導のもと清掃の徹底・ゴミ分別の徹底によく取り組んだ。</p> <p>② 学校行事について 環境整美委員は、体育祭、文化祭共清掃や啓発活動を率先して頑張った。</p>	<p>成できた。</p> <p>③ 体育祭のモラルやマナーが多少改善したように思う。 文化祭については、多少改善しなくてはならない。</p>	<p>る意識の高揚に取り組まなくてはならない。</p> <p>①-3 掲示物、ロッカーの整理整頓 「掲示物、ロッカーの整理整頓が大変良くできた。」「よくできた。」含め 72% 「多少改善点がある。」 28%</p> <p>ロッカーの上が散らかっていて改善点が多い。</p> <p>② 学校行事について ②-1 文化祭 「校内でのゴミ散乱が少しあった。」「あった。」含め 9% 「模擬店でのゴミの分別多少改善点がある。」「改善点がある」含め 3%</p> <p>②-2 体育祭 「競技場内でのゴミ散乱が少しあった。」「あった。」含め 6% 「マナーを守り、各自のゴミは、持ち帰る。」「多少改善点があった。」「改善点があった。」含め 9%</p> <p>文化祭では、入場者や生徒たちへのマナーやモラルの高揚を行わなくてはならない。 体育祭ではゴミゼロの啓発活動を通じて、ゴミの散乱状況が改善されたが、ゴミを出さない工夫も必要である。引き続き啓発活動を続けていく必要がある。</p> <p>③ 環境整美委員会を年間3回実施し、係活動では概ね良くできた。</p>	<p>の啓発活動が課題である。</p> <p>③ 環境整美委員会は随時開催していきたい。</p>
21	<p>防災教育</p> <p>① 防災委員、防災クラブの活動をベースとして、災害時に命を失わない、役に立つ心を育成する。</p>	<p>① 地域と共に防災活動を行い、社会の一員として、求められている防災マインドを育てる。</p> <p>② 災害時を含め、社会で主体的に動ける心を育てる。 (防災教育)</p>	<p>① 地域と共催の防災訓練を企画、実行する。</p> <p>② 災害時に必要な器具等を使う訓練を日常的に行う。</p>	<p>① 2か所以上の他団体と共催し200名以上の参加を目指す。</p> <p>② 炊き出し訓練時だけでなく、効率面、衛生面、実用面などを考慮した器具等を日頃から選別、使用出来ることを目指す。</p>	<p>(評価指標による達成度)</p> <p>① 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域・他団体と共催できなかった。</p> <p>② 衛生面や効率等については、昨年と変わらない状況であり、器具等も昨年のもを使用した。 (活動計画の実施状況)</p> <p>①② 炊き出し訓練では新型コロナウイルス感染拡大防止策を図りながら、3年生と本校職員を対象に実施した。</p>	<p>(達成度) B</p> <p>(所見)</p> <p>①② 新型コロナウイルス感染拡大のため目標を達成することはできなかったが、炊き出し訓練や避難経路、初期対応については充実したものにできた。</p>	<p>① 生徒や教職員に本校が地域防災の拠点として、役割や責任を担う意識がついてきた。</p> <p>② 地域住民からは、来年度は炊き出し訓練や合同避難訓練の要望が寄せられた。</p>	<p>① 避難訓練だけでなく防災士養成講座などの参加者が多くなるよう、学校のホームページや地域の回覧板を利用して、広報普及活動を充実させる必要がある。</p>

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
22	<p>保健安全教育</p> <p>① 保健安全に関する指導・</p>	<p>①生涯を通して、健康で活力ある生活を送るために、健康の保持増進に関</p>	<p>① 定期健康診断や保健だよりの発行等により、健康に関する情報提供を行う。</p>	<p>①-1 定期健康診断受診率 100%。</p> <p>①-2 保健だよりの発行。</p>	<p>(評価指標による達成度)</p> <p>① 定期健康診断受診率 97%</p>	<p>(達成度) C</p>	<p>①-1 未受診生徒に対し定期健康診断の意義を繰り返し説明し、学校医・</p>	<p>①-1 定期健康診断の重要性・必要性を伝え、次年度も受診率100%をめ</p>

	<p>情報提供を行う。</p> <p>② 生徒保健厚生委員会による環境整備・安全点検を行う。</p>	<p>する指導の充実を図る。 (特活部・保健厚生課)</p>	<p>② 生徒保健厚生委員を中心に、教室内の環境整備・安全点検、AEDの定期点検等を実施する。</p> <p>③ 学校行事における保健安全活動を充実させる。 (特活部・保健厚生課)</p>	<p>(月1回) ② 生徒保健厚生委員会活動。 (月2回)</p> <p>③-1 HR活動等における保健講演会の開催(年1回)。</p> <p>③-2 文化祭における保健展を開催する。</p>	<p>①-2 保健だよりを月1回発行。</p> <p>② 生徒保健厚生委員会活動を月2回実施。</p> <p>③-1 歯科講演会(1年)の開催。(年1回)</p> <p>③-2 新型コロナウイルス感染症対応のため、文化祭における歯科保健展の開催はできなかった。 (活動計画の実施状況)</p> <p>①-1 未受診者に対して定期健康診断の意義を繰り返し説明し、学校医・歯科医の協力により、受診率を97%にすることができたが、長期欠席者等で、数名未受診者が残ってしまった。</p> <p>②-1 保健だよりを月1回発行した。</p> <p>②-2 安全点検だけではなく、定期健康診断やSSH等、様々な機会を捉えた活動ができた。</p> <p>③-1 専門家を招いて、歯科講演会を開催できた</p> <p>③-2 文化祭では、新型コロナウイルス感染症対策のため、歯科保健展を開催せず、フードコートの消毒作業にあたった。</p>	<p>(所見)</p> <p>③-1については、計画通り実施できたが、その他については、新型コロナウイルス感染症予防のため、通常通りの実施が難しかった。</p>	<p>歯科医の協力もいただいたが、受診率が97%となった。</p> <p>①-2 保健だよりだけではなく、健康診断や文化祭等の学校行事により、機会を捉えた情報提供が行えた。</p> <p>② 生徒保健厚生委員会活動により、定期健康診断の準備・片付けや学校内の環境整備・安全点検等が行えた。</p> <p>③-1 専門家を招いて歯科講演会を開催することで、健康・安全に関する関心が高まった。</p> <p>③-2 新型コロナウイルス感染症予防のため、文化祭での歯科保健展を開催することができなかった。その代わりに、フードコートの消毒作業に従事し、感染予防にあたった。</p>	<p>ざすとともに、二次検査(精密検査)の受診率の向上を図る。</p> <p>①-2 月毎の保健だより発行だけでなく、学校行事等の機会を捉えた保健指導により情報提供を行う。</p> <p>② 生徒保健厚生委員会活動、環境整備・安全点検の活動だけにとどめず、学校行事における保健活動で活躍できるような内容を検討する。さらに、保健活動のリーダーとなって活躍できる生徒の育成も目指したい。</p> <p>③-1・2 引き続き講演会や文化祭の保健展を開催し、健康・安全に関する関心を高める。</p>
23	<p>特別活動</p> <p>① 特別活動への生徒の自主的な取組を充実させる。</p> <p>② 部活動の更なる活性化を図る。</p>	<p>① 生徒自ら率先して各種活動に取り組むことのできる学校行事、生徒会活動の充実に努め、集団活動を通してコミュニケーション能力の向上を図る。 (特活部・特別活動課)</p>	<p>① 生徒による集会時の司会進行、記録、挨拶を今以上に取り入れ、自主的に運営できるように指導する。</p> <p>② 文化祭・体育祭の内容の多様化・充実化を図り、生徒が意欲的に取り組む学校行事を目指す。</p> <p>③ 「みちピカ事業」で周辺地域への清掃奉仕活動を行い、仲間と協力して活動ができる能力を身につける。</p>	<p>① 生徒総会、壮行会、予餞会を生徒が100%運営する。</p> <p>② 文化祭への生徒の満足度90%以上。 体育祭への生徒の満足度85%以上。</p> <p>③ 「みちピカ事業」参加者平均70名以上。</p>	<p>(評価指標による達成度)</p> <p>① 生徒総会、壮行会、球技大会、予餞会は生徒が自主的に運営できた。</p> <p>② 文化祭への生徒の満足度93% 体育祭への生徒の満足度92%</p> <p>③ みちピカ事業参加者平均65名</p> <p>(活動計画の実施状況)</p> <p>① 生徒会執行部を中心に、主体的に活動できた。</p> <p>② 体育祭・文化祭ともに、クラスやコースで工夫が見られ、それぞれの特色が生かされた取組であった。</p> <p>③ 6回の実施で、学校周辺の近隣を中心に丁寧な清掃を行った。</p>	<p>(達成度) A</p> <p>(所見)</p> <p>① 各行事で生徒会が中心となって運営できた。</p> <p>② 文化祭・体育祭ともに目標の満足度を達成した。</p> <p>③ 目標の参加者数を上回ることができた。</p>	<p>① 各行事で生徒の自主的な運営による活動が展開できた。</p> <p>② 体育祭ではコース対抗で1学年から3学年が協力して活動することで、縦のつながりが強化され、生徒の満足度も高まった。文化祭は各コースによる企画で本校の特徴を生かした内容の充実を図った。</p> <p>③ みちピカ事業は6回の実施で、平均65名の参加があり、コロナ対策のため制限して行ったため、昨年度は下回った。</p>	<p>① 生徒会役員会を定期的に開催し、生徒会の自主的な運営を更に強化していきたい。</p> <p>② 文化祭の満足度は高いものの、本校の特徴を生かした企画を生徒会役員と共に考えていきたい。体育祭は、生徒の希望を取り入れた新たな種目を取り入れていきたい。</p> <p>③ 参加生徒に偏りが見られ、一部の者だけが活動しているので、様々な生徒が参加できる活動にしていきたい。</p>
24		<p>② 部活動を充実・活性化させ、日々の活動を通して精神面、体力面での成長を図るとともに、団結心や協力心を育成する。 (特活部・特別活動課)</p>	<p>① 部紹介・体験入部を実施し、部活動の入部を促進する。</p> <p>② 部活動の活動内容や成績を積極的に広報し、生徒の意欲を高め、校内の共通理解・協力体制を強化する。</p>	<p>① 入部率80%以上。</p> <p>② 表彰伝達を毎月行い、ホームページで広報する。</p>	<p>((評価指標による達成度)</p> <p>① 入部率88%</p> <p>② 表彰伝達を年間9回行った。</p> <p>(活動計画の実施状況)</p> <p>① 部活動紹介で、各部1年生の入部を呼びかけるとともに、部活動見学週間を設定し、活動場所等の案内を行った。</p> <p>② 予定通り実施できた。</p>	<p>(達成度) A</p> <p>(所見)</p> <p>① 着実に入部率を高めることができた。</p> <p>② 部活動の活動内容や成績を積極的に広報できた。</p>	<p>① 各部・同好会の活発な取組が入部促進につながった。</p> <p>② 月1回、集会時に表彰伝達を行うことで運営の簡素化と時間短縮を実現した。他の部の活躍が刺激となり、各部好成績を残すことができた。</p>	<p>① 補習との両立を考え、更なる入部率の拡大に努める。</p> <p>② 様々な機会を利用して、部活動の活躍や取組を全校生徒に伝え、部活動の更なる活性化につなげる。</p>

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)				
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 (目 標 値)	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
25	工業・水産教育 ① 工業の基礎・基本を重視するとともに地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向に適切に対応し得る人材の育成を目指す。	① 工業・水産教育のそれぞれの特長を生かした教育を推進し、実験・実習や課題研究、インターンシップ等の体験的な教育活動を展開する。(各類・コース)	・情報科学コース ① オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立つ。	・情報科学コース ① 大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を年3回以上実施する。	・情報科学コース ① 大学訪問1校、研究所訪問1カ所実施。課題研究で高大連携実施。生徒満足度3.8。(活動計画の実施状況) コロナ禍により予定していた5割程度が実施できなかった。	・情報科学コース(達成度) C (所見) コロナ禍の状況において実施が難しかった。	・情報科学コース ① 1年生は初の大学訪問で進学への意識を高めることに役立った。2年生はスマート農業を見学することで科学技術が社会に貢献していることが理解でき、大学での研究への意欲を持たせることができた。	・情報科学コース ① コロナの影響により3年生は実施できなかった。生徒の進学意識の高揚に効果があることから継続して取り組みたい。次年度もコロナの影響は否めないため実施の時期や連携方法を再度検討する必要がある。
			・環境科学コース ① オープンキャンパスや大学講義を受け大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立つ。	・環境科学コース ① 大学と連携した講義やオープンキャンパスへの参加を年3回以上実施する。	・環境科学コース(評価指標による達成度) 大学訪問1校、研究所訪問1カ所実施。課題研究で高大連携実施。生徒満足度3.8(活動計画の実施状況) コロナ禍により予定していた5割程度が実施できなかった。	・環境科学コース(達成度) C (所見) コロナ禍の状況において実施が難しかった。	・環境科学コース 大学と連携を図ることで、大学の先生や学生たちと直接話ができて、生徒が大学について知る良い機会となっている。	・環境科学コース コロナ禍の状況下、オンライン等で一部大学と連携したが、さらに方法を模索する必要がある。
			・機械コース ① 企業見学において職場を見学する。また、インターンシップを通じて企業との連携を密にする。	・機械コース ①-1 大手企業の工場見学を全員に対して実施する。また、2年生の30%以上の生徒に対して、インターンシップを実施する。 ①-2 インターンシップ実施においては、生徒の希望する職種に応じた企業を斡旋する。	・機械コース(評価指標による達成度) ① コロナ禍により、大手企業の工場見学は実施できなかった。また、2年生のインターンシップについては、68.6%の生徒に対して実施した。(活動計画の実施状況) ① ほぼ、計画通り実施できた。	・機械コース(達成度) A (所見) 企業見学ができなかったことを補うためにも、インターンシップの参加割合が多くなるようにした。また、教員による企業訪問や電話連絡も増やした、連携を密にした。	・機械コース 授業で学んだことが仕事でどのように活かされるのか知る良い機会となった。特に、インターンシップはキャリア教育を推進する上で非常に効果的であった。今年度は、インターンシップで研修を受けた企業に、生徒が希望して就職することができた。	・機械コース 工場見学は、キャリア教育を十分推進する上で、欠かせない教育活動であるので、コロナ禍で実施可能な内容を吟味したり、インターネット等を利用したキャリア教育を推進していく必要がある。企業見学が実施可能になった際には、生徒在学中の3年間を通してバランス良く訪問先を決めるようにしたい。また、インターンシップもキャリア教育を推進する上で大きなウエイトを占めるため、生徒ができるだけ関心を持つことができるよう工夫する。
			・生産システムコース ① 学習内容や就職先を勘察し、有意義な企業(職場)見学を行う。 ② インターンシップを通じて技術者として生きることを体験する。参加については参加者の自主性に重点を置く。	・生産システムコース ① 県内外企業の企業見学を全員に対して実施する。 ② インターンシップは2年生で行う。	・生産システムコース(評価指標による達成度) ① コロナウイルス感染拡大のために企業見学は実施できなかった。 ② 2年生対象に案内し、希望者に対し、インターンシップ実施した。(活動計画の実施状況) ① 実施できなかった。 ② 5社に9名の2年生が参加した。生徒の希望する企業を追加することができた。	・生産システムコース(達成度) B (所見) ① コロナ禍により実施できなかった。 ② 参加生徒は意欲的に取り組んだことで企業からの評価も高かった。	・生産システムコース ① 県外の大手企業の生産活動を学ぶ機会がなく、就職先選択にも影響が出たのではないかと推測する。 ② 参加生徒は企業での業務が自信となり、自身の就職に向かって前向きに考えられるようになった。	・生産システムコース ① 企業見学を通して、就職に向けた意識を高めるとともに、先端技術を学ぶ機会となるなど、教育的効果が高いので、継続して実施していきたい。 ② 企業数、参加生徒を増やす努力を継続する。生徒が興味を持っている企業への依頼を行っていきたい。
			・電気コース ① 生徒の視野を広め、主体的な進路選択につながるような機会として、企業見学・インターンシップを実施する。	・電気コース ①-1 各学年1回以上の企業見学を行う。 ①-2 インターンシップ2社以上の実施する。	・電気コース(評価指標による達成度) ①-1 1年0、2年1、3年0 ①-2 2社 (活動計画の実施状況) コロナ禍により中止とした。	・電気コース(達成度) B (所見) コロナ禍では企業も受入が厳しい。	・電気コース ①-1 技術分野の知識の向上、就職について進路決定の一助となっている。 ①-2 その企業へ就職希望している生徒を主に実施したので、今後の判断材料となり、モチベー	・電気コース ①-1 来年度もコロナ禍の影響がある場合、代替案が必要。 ①-2 インターンシップが可能な企業の新規開拓。

		<p>・情報通信コース ① インターンシップや企業・大学見学を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立つ。</p>	<p>・情報通信コース ①-1 企業・大学訪問を実施する。 ①-2 インターンシップに生徒の2割以上の参加を目指す。</p>	<p>・情報通信コース (評価指標による達成度) ①-1 12月に工場見学実施 大学見学は中止 ①-2 インターンシップ 33%の生徒が参加 (活動計画の実施状況) ①-1 2年生が工場見学実施 ①-2 1社10名</p>	<p>・情報通信コース (達成度) B (所見) コロナの影響で大学に行けず残念であった。</p>	<p>・情報通信コース ①-1 施設見学や話を伺うことで進路を考えるよい機会となった。 ①-2 インターンシップでは社会人としてのマナーから始まり、情報に関する専門知識を進化させる内容であり有意義な経験を積むことができた。</p>	<p>・情報通信コース ①-1 次年度は是非とも大学の訪問を実現したい。 ①-2 1社だけでなく計画的に受け入れ企業を増やしていきたい。</p>
		<p>・環境土木コース ① 土木関連機関との連携を図りながら、インターシップを実施し、生徒の専門に関する知識と進路選択に役立つ。</p>	<p>・環境土木コース ①-1 インターンシップ参加生徒数を2年生で40%以上とする。 ①-2 インターンシップ報告会、課題研究発表会を実施する。</p>	<p>・環境土木コース (評価指標による達成度) ①-1 11社21名で参加率72%となった。 ①-2 12月に報告会を実施した。 (活動計画の実施状況) 予定どおり実施した。</p>	<p>・環境土木コース (達成度) A (所見) コロナ禍でも実施することができた。</p>	<p>・環境土木コース ①-1 企業での研修は生徒の進路に対する意識向上と専門学習の良い機会となり、生徒にも好評であった。 ①-2 報告会によって各企業の様子や業務内容について共通理解することができた。</p>	<p>・環境土木コース 生徒にとって良い機会となっているため継続していきたい。</p>
		<p>・建築コース ① インターシップを通じて企業との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立つ。</p>	<p>・建築コース ①-1 インターンシップに生徒の20%以上が参加できるようにする。 ①-2 インターンシップ体験後の生徒アンケート実施結果で、満足度が4段階で平均3.5以上を目指す。 ①-3 3学期に課題研究発表会を行う。</p>	<p>・建築コース (評価指標による達成度) ① おおむね目標を達成した。 (活動計画の実施状況) ① 見学や体験を通してほとんどの生徒が、仕事内容への興味や専門教科に関心を持つことができた。課題研究発表会を建築コース展で行った。</p>	<p>・建築コース (達成度) A (所見) ① 昨年に引き続き建築士会と連携し設計コンペに参加することができた。</p>	<p>・建築コース ① 生徒は、働くことや進路について真剣に考えることができた。また、建築士会の方とのディスカッションで建築士の生の声を聞くことによって、建築業に対して理解を深めることができた。</p>	<p>・建築コース 次年度も継続していきたい。</p>
		<p>・総合デザインコース ① インターンシップや企業・大学訪問を通じて企業や大学との連携を密にするとともに、生徒の進路選択に役立つ。 ② 実習・課題研究を充実させ、コース展や各種コンペに参加し、対外的な活動を更に充実させる。</p>	<p>・総合デザインコース ①-1 インターンシップに生徒の20%以上が参加できるようにする。 ①-2 企業・大学訪問を実施する。 ②-1 令和2年度コース展を実施し、地域・中学校などにPRする。 ②-2 それぞれのテーマに分かれた課題研究に取り組み、成果を出す。</p>	<p>・総合デザインコース (評価指標による達成度) ①-1 インターンシップに3名の生徒が参加した。 ①-2 コロナ禍のため中止 (活動計画の実施状況) コース展を実施予定である。また6次産業化ステップアップ事業において、地域、中学生に向けて活動をPRするため各校と連携した。</p>	<p>・総合デザインコース (達成度) B (所見) インターンシップに関しては、テクノスクールで木工技術の実習に参加した。コース展だけでなく、各種コンペに積極的に参加した。</p>	<p>・総合デザインコース ① インターンシップを通じて、進路に対する意識向上がはかれた。 ② コース展、コンペ、6次産業化ステップアップ事業などのイベントに参加することによって地域や企業との連携を図ることができた。</p>	<p>・総合デザインコース インターンシップについては、今後も進路に繋がるような企業との連携を行いたい。 対外的な活動については、次年度も継続していきたい。</p>
		<p>・海洋科学・海洋総合コース ① フィールドワークやインターンシップを積極的に実施するとともに、関係機関と連携した出前授業や施設見学を行い、水産・海洋分野に興味関心をもたせる。 ② 実習において「SCITECHIノート」を活用し、生徒が自ら考え取り組む態度を身につけさせる。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース ①-1 漁業体験やフィールドワーク等を各学期1回以上実施。 ①-2 出前授業を年2回以上実施。 ② 「SCITECHIノート」を活用した実習を月1回以上実施する。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース (評価指標による達成度) ①-1 2年生で漁業体験を2回、うみがめ博物館での実習を2回、志和岐港での実習を2回、実施した。 ①-2 大学及び企業の方の出前授業を2回実施した。 ② 「SCITECHIノート」を活用した実習を月1回程度実施した。 (活動計画の実施状況) コロナウイルスの関係で、実習を計画通り実施することができなかったが、テレビ会議の活用等で可能な限り実施した。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース (達成度) B (所見) フィールドワークについては、コロナウイルスの影響を受け、実施できなかったものもあった。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース ①-1 海洋の専門分野に興味・関心を持つ良い機会となった。 ①-2 海洋の専門分野に興味・関心を持つ良い機会となった。また、教員にとっても良い研修の機会となった。 ② 少しずつではあるが、生徒が自ら考えノートを作成しようとする姿勢が見られるようになった。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース リモートでの講演等を活用して生徒が専門分野に興味・関心を持っているように工夫していきたい。</p>

学 校 自 己 評 価

年 度 目 標					年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)			
番号	重点課題	重点目標	活動計画	活動の評価指標 (目標値)	評価指標の達成状況	総合評価	効果と検証	次年度への課題と改善策
26	工業・水産教育 ① 各専門の基礎・基本を重視するとともに、地域や産業界と連携した教育の在り方を模索し、社会の変化や産業界の動向等に適切に対応できる人材の育成を目指す。	① 工業や水産に関する専門的な技術の習熟度を高め、技能の向上を図る。(各類・コース) ② 専門的な知識・技能を身につける教育活動を展開し、各種資格や検定の合格者または合格率の増加を図る。(各類・コース) ③ 各種競技会等へ積極的に参加し、専門技術等を高める教育を展開する。(各類・コース)	・全類・全コース ① 各コースの実態に即して、技能検定等の実施やものづくりコンテストへの出場を目指す中で、技術の向上に努める。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を積極的に実施する。	① 各コース毎に、技能の向上を目指した取組をする中で、各種コンテスト・大会へ出場し、各専門分野での上位入賞を目指す。 ② 工業系では、「ジュニアマイスターゴールド」取得者15名以上、「シルバー」30名以上を目指す。 ③ 海洋系では「水産海洋技術検定」「漁業技術検定」「栽培漁業技術検定」の合格率90%以上を目指す。	(評価指標による達成度) (工業) ① 高校生ものづくりコンテスト県大会はコロナ禍により、1部門以外は中止となり、四国大会・全国大会とも中止であった。 ② ゴールド16名 (昨年23) シルバー35名 (昨年38) 特別表彰2名 (昨年7) (1月22日現在) (海洋) ③ 1/26, 2/2実施予定	(達成度) (工業) B (海洋) B (所見) (工業) 確定後、記入 (海洋) 概ね達成できる予定。	(工業) 各コースにおける実習等でのスキル向上や資格取得のための補習を計画的に実施した。ジュニアマイスターについては、まだ追加申請する予定。 (海洋) 各検定に取り組むことで実習に明確な目標ができ、生徒も真剣に取り組むことができた。	(工業) 次年度向け実習等のスキルの向上とともに、資格取得においては合格率の向上を図るため、補習方法や生徒の目的意識を醸成していく必要がある。 (海洋) 今年度と同様に実施していきたい。
		・情報科学コース ① 実習において、口頭試問を実施し、自ら学び、考え、問題を解決する態度を育成する。 ② 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。 ③ 各プログラミングコンテストに積極的に取り組む。	・情報科学コース ① 提出期限内の実習レポート提出率95%以上を目指す。 ② 情報技術検定2級合格率が80%以上。ITパスポート試験合格5名以上。基本情報技術者試験合格2名以上を目指す。 ③ プログラミングコンテストの入賞を目指す。	・情報科学コース (評価指標による達成度) ① 提出率99% ② 情報技術検定2級63% ITパスポート合格8名。 ③ ビッグデータコンテスト3作品提出。 (活動計画の実施状況) ① 週一回の実習を行い、その都度レポートを提出させた。 ② 放課後や夏休み等に各補習を行い受験させた。 ③ ビッグデータの考察を行い県で発表を行った。	・情報科学コース (達成度) B (所見) ① ほぼ全員が期限までに提出できた。 ② 情報技術検定の合格率が下がった。 ③ リモートで発表を行い県で入賞することができた。	・情報科学コース ① 大多数の生徒が実習後、速やかにレポート提出を完了する習慣を身につけた。 ② 資格試験に合格することで生徒の自信となり、学習意欲の向上に繋がった。 ③ ビッグデータから考察を行い発表することで考える力やプレゼンテーション能力が身についた。また、入賞することで達成感が生まれた。	・情報科学コース ① 極わずかな生徒が提出期限に間に合わない。粘り強く指導し、今後も継続していく。 ② 情報技術検定は昨年より合格率が下がった。コロナの影響もあるが指導方法を検討し合格率を上げたい。 ITパスポートの合格者は目標を達成できた。継続して合格するように指導法を検討したい。 ③ 次年度も継続できるように関係機関との連携を図る。	
		・環境科学コース ① 実習において、口頭試問を実施し、自ら学び、考え、問題を解決する態度を育成する。 ② 徳島市内を流れる河川の水質調査を行い、県内関連企業と連携して、郷土の自然環境の保護に積極的に取り組む人材を育成する。 ③ 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。 ④ 科学論文発表(ポスター発表)を目標に積極的に取り組む。 ⑤ ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。	・環境科学コース ① 提出期限内実習レポート提出率95%以上を目指す。 ② 県内関連企業との連携を図る。 ③ 危険物取扱者乙4の合格率が80%以上を目指す。 ④ SSH発表会(校内、県、四国)での発表を目指す。 ⑤ ものづくりコンテスト四国大会に出場し、上位入賞を目指す。	・環境科学コース (評価指標による達成度) ① 提出率99% ② SSH事業を活用し、外部講師による講演を実施した。 ③ 各学年の乙4取得率 1年 63.2% 2年 100% 3年 82.1% ④ 発表会は、四国大会が中止になるなどコロナ禍の影響を受け十分に行えなかった。 ⑤ ものづくりコンテストは四国大会が中止になったが、県大会が実施された (活動計画の実施状況) ① 実習の各班で徹底した。 ② 企業の技術者を招き、公害防止管理者についての講演会を実施した。 ③ 2, 3学年で目標の取得率を達成することができた。 ④ 校内発表のみで目的を果たした。 ⑤ ものづくりコンテスト県大会で十分実力を発揮することができた。	・環境科学コース (達成度) B (所見) ① ほぼ全員が期限までに提出できた。 ② 今後は、リモートによる実施を検討する必要がある。 ③ 1学年の取得率の低下についてはコロナ禍により補習時間等の影響があった。 ④ コロナ禍により研究発表の機会が減少した。 ⑤ ものづくりコンテストは県内大会を実施することにより、一定の水準まで技術レベルを上げることができた。	・環境科学コース ① ほとんどの生徒が、期限内にレポート提出する意識が身についた。 ② 外部講師を招くことにより実践的な内容で学習することができた。 ③ 資格試験については1学年で取得率が低下したが、卒業までに目標を達成できるように指導を続けていきたい。 ④⑤ 研究発表会・コンテスト等においては、発表の機会を動画、リモート等でも実施方法を模索する。	・環境科学コース 講演会や各種発表会、コンテストについては、コロナ禍の影響を受けても実施できるよう、動画やリモート等の活用を有効に実施していきたい。また、資格試験や各教科の指導については、デジタルコンテンツの活用等、IT技術をふんだんに取り入れて、学力向上を図っていきたい。	
		・機械コース ① 資格取得を奨励し、資格補習	・機械コース ① 2級ボイラー技士(2年)	・機械コース ① 2級ボイラー技士試験(2	・機械コース (達成度) ① 2級ボイラー技士試験(2	・機械コース ① 資格取得は専門教育・	・機械コース ① 補習の教材やノウハウ	

<p>を計画的に実施することにより、合格率のアップを図る。</p> <p>② ものづくりに係わる競技大会を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>の補習出席者の合格率を60%以上。機械製図検定(3年)の合格率を65%以上を目指す。</p> <p>② ものづくりコンテストで、県内優勝し、四国大会に進出する。また、四国地区高校生溶接技術競技会では県内大会を優勝し、本大会に出場する。</p>	<p>年)はコロナ禍により実施されなかった。機械製図検定(3年)の合格率は45.7%であった。また、機械コースが担当した、情報技術検定(1年)は100%、計算技術検定(1年)は97%の高い合格率を示した。国家技能検定(普通旋盤)では優秀技能士として表彰を受けた。</p> <p>② ものづくりコンテストと四国地区高校生溶接技術競技会はコロナ禍により中止となったが、徳島県若年者技能競技大会で、機械加工部門で2位に、被覆アーク溶接部門で3位に入賞した。(活動計画の実施状況) 朝補習、放課後補習、夏季休業日中の補習等を実施し対応した。</p>	<p>B (所見) ① 機械製図検定の合格率は昨年より21.9ポイント下回り、目標を達成できなかった。朝補習を実施しているクラスでは大きな成果があった。</p> <p>② 徳島県若年者技能競技大会で2位と3位に入賞することができた。</p>	<p>キャリア教育を進める上で、生徒に大きな自信を持たせることができた。また、2級ボイラー技士試験は、受験はできなかったが、半年以上の長期にわたって早朝・放課後の補習を行うため、学習する習慣づけや学習の場としてのクラスの雰囲気作りにも効果があった。</p> <p>② 徳島県若年者技能競技大会では機械工作部員が手分けして出場した。このことにより、専門分野において非常に高度な技能を身につけることができた。</p>	<p>を、確実に次年度の担当者に引き継ぐシステムの構築が必要である。</p> <p>② 各種大会・コンテストへの出場については、練習に危険性が伴うため、安全対策・安全指導を絶えず心がける必要がある。</p>
<p>・生産システムコース ① メカトロニクス関連企業に就職する際、学習していて良かったと評価されるような実習をしっかりと実践する。 ② コースの基幹となる資格を取得できるように、最大限のサポートをする。 ③ 各種の技術的なコンテストに応募出場し、入賞する。</p>	<p>・生産システムコース ① シーケンスなどの制御関連や3Dプリンタを活用した実習を充実させる。 ② DD3種において、60%以上の合格率を目指す。 ③ ロボット競技など、全国大会出場を目指す。</p>	<p>・生産システムコース (評価指標による達成度) ① メカトロニクス関係の内容を充実することができた。 ② DD3種において57%の合格率であった。 ③ ボット競技の全国大会は中止となったが独自の県大会を行い出場した。(活動計画の実施状況) ① 3Dプリンタ、3D-CADやシーケンス、ボット等のメカトロニクス関係の実習を2年生で実践している。 ② 休校により学習が遅れ、放課後や早朝の補習を実施した。 ③ ボット競技で県大会に出場し2位となった。</p>	<p>・生産システムコース (達成度) B (所見) ① 先端技術への生徒の興味は高く、理解も早い。 ② 電気工事士の試験日がコロナ禍で遅れ、補習が重なり、負担となっていた。 ③ 全国大会は中止となったが、県大会が開催されたことは良かったと考えている。</p>	<p>・生産システムコース ① メカトロニクス関連の企業への就職を目指し、新しい内容を実施していきたい。 ② 生徒の意欲を高める必要性を感じている。 ③ 生徒が意欲的・主体的に取り組む活動を継続できる環境が大切である。</p>	<p>・生産システムコース ① 最新の技術が、効果的に学ぶことができる設備を検討し、導入しなければいけない。 ② 生徒と教員の負担を軽減するよう補習等の計画を見直す必要がある。 ③ 技術を継承し、活動を継続できるようにする必要がある。</p>
<p>・電気コース ① 資格試験に計画的に取り組む、適切な指導を行い合格率を上げることにより、知識・技能の向上と、主体性の確立を目指す。 ② ものづくりコンテストに出場することにより、技能の向上を目指す。</p>	<p>・電気コース ① 1学年の第2種電気工事士合格率90%を目指す。 ② 県大会2位以内、四国大会入賞を目指す。</p>	<p>・電気コース (評価指標による達成度) (活動計画の実施状況) ① コロナ禍のため、試験延期 ② // 中止</p>	<p>・電気コース (達成度) B (所見) ① 試験結果がまだだが、90%と予想している</p>	<p>・電気コース ① 試験対策はおおむねうまくいったが、さらに指導技術の向上は必要。 ② 大会には参加できなかったが、練習は行っている。幸い出場予定選手は来年度も出場可能である。</p>	<p>・電気コース ① 不合格者の来年度の再受験についてしっかりフォローする。 ② 改めて、大会出場に向けて体制を整える。</p>
<p>・情報通信コース ① 資格取得を奨励し、資格補習を計画的に実施する。 ② ものづくりに係わる競技大会出場を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>・情報通信コース ① 国家資格取得を目指し、一人2つ以上の資格を取得する。 ② マイコンカーラリーで四国・全国大会出場を目指す。</p>	<p>・情報通信コース (評価指標による達成度) ① 工事担任者DD3種合格率97% ② 四国大会出場 ベシック部門 優勝 カラ部門 優勝、準優勝 全国大会中止 (活動計画の実施状況) 資格取得に向けて早朝補習、放課後補習を計画的に行った。</p>	<p>・情報通信コース (達成度) A (所見) ① コロナの影響で基本情報の試験が延期になり残念であった。 ② 全国大会出場資格を得たが開催されず残念であった。</p>	<p>・情報通信コース ① 全員が国家資格取得に向け意欲的に取り組んだ。 ② 四国大会や全国大会で上位を狙えるレベルにあり、継続できるよう取り組みたい。</p>	<p>・情報通信コース ① 積極的に資格取得を希望する生徒が増加している。計画的に補習等を行い結果に結びつけたい。 ② 全国大会入賞を目標に取り組みたい。</p>
<p>・環境土木コース ① 専門知識の理解と意欲向上のため資格取得を目指す。</p>	<p>・環境土木コース ① 2級土木施工管理技術検定・学科試験70%以上、測量士補合格率20%以上を目指す。 ② 四国・全国大会出場を目指す</p>	<p>・環境土木コース (評価指標による達成度) ① 2級土木施工管理技術検定学科試験合格率、2年生100%、3年生75%、測量士</p>	<p>・環境土木コース (達成度) B (所見)</p>	<p>・環境土木コース ① 2級土木施工管理技術検定では全員がお互いに教え合うなど協力して学習し合ったこといできま</p>	<p>・環境土木コース ① 努力したことが結果に繋が積極的に学習できるようになった生徒が多くなった。</p>

		<p>② ものづくりコンテスト測量部門に出場をする。</p> <p>③ コンクリート甲子園に出場する。</p>	<p>す。</p> <p>③ 入賞を目指す。</p>	<p>補合格率12%となった。</p> <p>② コロナ感染拡大のため各種大会が中止となる。(活動計画の実施状況)</p>	<p>① 学習期間が短い中積極的に学習し良い結果に繋がったと思う。</p> <p>② 各種大会が開催されず残念であった。</p>	<p>した。測量士補は数学の苦手な生徒への指導を検討したいと思う。</p> <p>② 来年度の各種大会に向けて準備したいと思う。</p>	
		<p>・建築コース</p> <p>① 有益な資格を取得させ、検定の合格を目指す。</p> <p>② ものづくりに係わる競技大会出場を目標に積極的に取り組む。</p>	<p>・建築コース</p> <p>① 有益な資格取得を目指し、2つ以上の資格を取得する。</p> <p>② ものづくりコンテストで、県予選突破し、四国大会に出場する。</p>	<p>・建築コース (評価指標による達成度) おおむね達成できた。2級建築施工管理技術検定試験では70%以上の合格率。</p> <p>(活動計画の実施状況) 主に実習において実施できている。</p>	<p>・建築コース (達成度) B (所見) 昨年度より大幅に成果が上がったが、より多くの合格者を出したい。</p>	<p>・建築コース 実習時に行うことで少人数学習となり理解できていない生徒に対する指導が容易であり確実な知識の習得につながっている。</p>	<p>・建築コース</p> <p>① 資格試験の時期が授業の進度よりも早く、内容をすべて履修しないまま、資格試験に臨まなければならない状況であるが、今後も生徒が積極的に挑戦できるようにしたい。</p> <p>② 製作予算などをもう少し確保したい。</p>
		<p>・総合デザインコース</p> <p>① 有益な資格を取得させ、合格率向上を目指す。</p> <p>② 資格取得を奨励し、資格補習を積極的に実施する。</p> <p>③ デザイン分野の各種コンクールに出品し、入賞を目指す。</p>	<p>・総合デザインコース</p> <p>① レタリング70%以上、トレース80%以上、色彩検定60%以上の合格率を目指す。</p> <p>② 補習に積極的に参加させる。</p> <p>③-1 ものづくりコンテストで県大会突破を目指す。</p> <p>③-2 課題研究の作品を各種コンペに出品し、入賞10作品以上を目指す。</p>	<p>・総合デザインコース (評価指標による達成度)</p> <p>① レタリングは62%、トレース67%、色彩検定71%の合格率であった。</p> <p>② 色彩検定や危険物の補習については早朝に行い、100%に近い出席率であった。(活動計画の実施状況) 岐阜女子大設計競技、パテントデザインコンテスト、毎日DASで入賞・入選を果たした。</p>	<p>・総合デザインコース (達成度) B (所見) 目標とする合格者を下回った検定があった。</p>	<p>・総合デザインコース 実技検定であるレタリング、トレース検定は実習時だけでなく、放課後や家庭での学習で成果を上げてきたが、より効果的な補習を行いたい。 色彩検定、危険物の補習については早朝補習を計画的に行うことにより、成果を上げてきた。</p>	<p>・総合デザインコース</p> <p>① 資格については、今後も継続して、各検定の最上位を目指していきたい。</p> <p>② 積極的な資格補習への参加を促したい。</p> <p>③ 各種コンペに今後も継続して出品していきたい。</p>
		<p>・海洋科学・海洋総合コース</p> <p>① 1学年で基本的なロープワークを身につけさせる。</p> <p>② 四国地区の水産系高校の生徒研究発表会や意見体験発表会およびSSH生徒発表会に参加する。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース</p> <p>① 基本的な5種類のロープワークを習得している生徒の割合90%以上を目指す。</p> <p>② 四国大会で最優秀賞をとり、全国大会出場を目指す。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース (評価指標による達成度)</p> <p>① 基本的な5種類のロープワークを習得している生徒の割合100%。</p> <p>② 水産・海洋高校生徒研究発表会、意見体験発表会ともに四国大会で最優秀賞を取ることができなかった。</p> <p>(活動計画の実施状況) ① 水産海洋基礎の実習で積極的に取り組んだ。 ② 水産・海洋高校生徒研究発表会及び意見体験発表会が動画での発表となった。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース (達成度) C (所見) ① 概ね達成できた。 ② 目標を達成することができなかった。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース</p> <p>① 実習で繰り返し練習することでほとんどの生徒が基本的な技術を身につけることができた。</p> <p>② 早めに準備を行い、発表練習の時間を十分確保するなど、指導方法を改善していきたい。</p>	<p>・海洋科学・海洋総合コース</p> <p>① 今年度と同様に実施していきたい。</p> <p>② 外部との連携も図りながら、実習やSSH課題研究の内容を充実していきたい。</p>

学 校 自 己 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価 (3 月 1 日 現 在)				
番 号	重 点 課 題	重 点 目 標	活 動 計 画	活 動 の 評 価 指 標 (目 標 値)	評 価 指 標 の 達 成 状 況	総 合 評 価	効 果 と 検 証	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
27	家庭・地域等との連携・貢献 ① 保護者への連絡・学校の情報提供を、文書とホームページへのアップの両方で行う。	① シャトル便の積極的な活用を図り、家庭との連携を密にするとともに、生徒の社会規範確立を目指す。また、PTA活動への積極的な参画を進め、保護者と教員がより頻繁に意見を交換する機会の充実に努める。	① 生徒・保護者・教員相互の関わりに関する研修を実施する。 ② 体育祭や文化祭のPTA活動における内容の検討と充実を図るために保護者との連携を密にする。 ③ 学校と家庭との連携を密にし、ホームページでの行事参加の呼びかけをする。	① 保護者・教員参加のもと学校行事関係のPTA役員会を2回以上実施する。 ② 体育祭・文化祭実行委員会を開催し、役員の参加率60%以上を目指す。 ③ 文化祭・体育祭の保護者向け案内をホームページにアップする。毎月初めに保護者向	(評価指標による達成度) ① コロナ感染症防止のため、PTA役員会は1回しか開催できなかった。しかし、PTA総会を書面総会等で代替えしたり、し代替えした。 ② コロナ感染症防止のため、体育祭・文化祭は、PTA役員参加無しとし、PTA四役	(達成度) B (所見) PTA四役を中心に、体育祭・文化祭、科技高オリジナルデザインタオ	① PTA四役会の3会は、意見も多く出て積極的な運営が行われた。 ② 例年体育祭・文化祭にPTA役員80名程度が参加してバザー等を行っていたが、本年度はPTA四役13名のみで縮小したが、支障をきたすことなく運	① コロナ禍で見通しが立ちにくい、次年度は高P連の中四国大会の開催される予定で、すでに科技高PTAにも会場役員5名、参加割当30名が決まっている。できるだけ保護者の負担とならないようにPTA活用内容を厳

	<p>② 各事業の担当がそれぞれに報道資料を提供するよう、システムを確立する。</p> <p>③ 中学校関係者への学校紹介イベントの年間スケジュールを積極的に広報する。</p>	<p>(企画部・総務課) (企画部・企画広報課)</p>	<p>けの各種案内を確認できるように、月末までにホームページの更新を行う。</p>	<p>のみでPTA活動を行った。</p> <p>(活動計画の実施状況) PTA総会を書面総会としたり、体育祭・文化祭でのPTA活動を、コロナ感染症防止のため、PTA役員80名程度で行っていた支援活動を、PTA四役13名で縮小して実施した。</p>	<p>PTA交通安全指導を運営することができた。</p>	<p>③ ホームページへの保護者向け案内が、体育祭のことしかアップできなかった。</p>	<p>選していく。</p> <p>② 引き続き役員会への参加を呼び掛ける。</p> <p>③ ホームページだけでなくメールやSNSをもっと活用する。</p>
28	<p>② 積極的な情報発信・広報活動を行い、地域と密接に連携、貢献できる学校づくりに努める。 (企画部・総務課) (企画部・企画広報課)</p>	<p>① 地域・大学等と連携した事業を積極的に実施する。</p> <p>② 本校の活動を積極的に広報する。</p>	<p>① 地域・大学等で小学生を対象とした出前授業を実施する。</p> <p>② 新聞やテレビなどのメディアを通じて積極的に行う。</p>	<p>(評価指標による達成度) ① 新型コロナウイルス感染症防止のため、全ての計画を中止した。</p> <p>(活動計画の実施状況) ② 新聞社の取材は10回、ほかにマスコミへの資料提供も3回実施され、コロナ禍でも広報活動が効果的に行われた。</p>	<p>(達成度) B</p> <p>(所見) ① コロナ禍でも可能な方法を考える必要がある。 ② マスコミを通して本校の広報活動が活発に行われた。</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染症防止による中止のため、成果を出すことができなかった。</p> <p>② マスコミの取材を受けることによって、より広範囲で効果的な広報活動を行うことができた。</p>	<p>コロナ禍でも持続的に地域・大学・企業等と連携しながら、広報活動ができるように努める。</p>
29	<p>③ ホームページや中学生体験入学、中学校訪問等を通して、本校の教育内容・教育活動についての広報活動を積極的に実施する。 (教務部・教務課) (企画部・総務課) (企画部・企画広報課)</p>	<p>① 各類型やコースの特色について、中学生に興味・関心を持ってもらえるような内容を検討し、より多くの目的意識と類の特色を理解した中学生に受検してもらう。 (教務部・教務課) (企画部・企画広報課)</p> <p>② 広報内容を吟味し、速やかな情報発信を行う。 (企画部・企画広報課)</p> <p>③ 中学校を訪問し、本校の教育内容・教育活動について説明し、中学校教職員に本校について理解してもらう。 (企画部・企画広報課)</p>	<p>① 体験入学参加者へのアンケート調査で、満足度の4段階評価平均が3.6以上。</p> <p>② 学校ホームページの更新回数を月10回以上とする。また、緊急連絡についてホームページを活用しすみやかに全関係者に周知できるようにする。</p> <p>③ 近隣中学校への学校訪問を年1回以上実施する。</p>	<p>(評価指標による達成度) 新型コロナウイルス感染症防止のため、中学生体験入学を中止したが、オープンスクールは、中学3年生とその保護者限定で実施した。</p> <p>(活動計画の実施状況) 4月から1月までの更新 4月10回、5月20回、6月20回、7月11回、8月19回、9月14回、10月21回、11月33回、12月25回、1月15回 合計184回(昨年度150回)</p>	<p>(達成度) A</p> <p>(所見) 中学生体験入学は中止となったが、オープンスクールを実施したところ参加者が前年の4倍になった。</p>	<p>① オープンスクールの参加者の99%から高い評価を得ることができた。徳島科学技術高校の広報という点では当初の目的を達成できた。</p> <p>② ホームページの更新回数は約20%増加したことで、本校の取組の理解が広がっている。</p> <p>③ 本校の取組が直接中学生に理解され大変有効であった。</p>	<p>広報活動については、コロナ禍でも効果的な方法を考える必要がある。</p>